

フィリピン新民族主義者同盟 (BAYAN)

フィリピン新民族主義者同盟 (BAYAN) は国際通貨基金 (IMF) と世界銀行の年次総会に抗議する日本の力強い連帯のあいさつを送ります。このブレトンウッズ機構の最新の会合が東京で開催されるということは実に皮肉なことです。前回の日本でのIMF・世銀総会の開催は約50年前 (1964年) のことですが、このとき日本は資本主義的繁栄のショーケースでした。しかし今日、日本は資本主義の根本的危機—富者のなかに超富裕層を生み出し、貧困者の数をますます増大させているその景気変動—、および、IMF・世界銀行その他の帝国主義の機構が押しつけている新自由主義グローバリゼーションの愚劣さを思い起こさせる国となっています。

日本とフィリピンの経済状況は対照的です。日本は経済大国ですが、フィリピンは遅れた非工業国です。しかし、日本とフィリピンの労働者階級は双方ともに、IMF・世界銀行が合法化を助け維持しているグローバル独占資本主義が押しつける政治経済システムによって搾取され抑圧されています。

実際、日本の労働者階級に対する搾取と抑圧は、最新の、そして今もなお猛威を振るっている経済金融危機のなかでさらに強まっています。1990年代の不動産・株式バブルの崩壊以来、日本経済は長期不況化にあり、失業が増大し続けています。無視されているかもしれませんが、日本が最初にIMF・世銀総会の受け入れ国になった48年前と現在の状況は実に対照的です。1964年には日本の国内総生産 (GDP) の成長率は実質11・2%で、失業率は1・1%でした。これに対して昨年の日本のGDP成長率は実質0・7%で、公式失業率は (控えめに示されているにもかかわらず) 公式失業率は4・6%でした。これに加えて日本の労働者は雇用の不安定さと貧困の増大に直面しています。日本を襲った巨大な津波と原発事故がこの状況をさらに悪化させています。その一方、危機のなかで、日本の巨大企業は日本の民衆およびフィリピンなど植民地・新植民地の民衆を犠牲にして超過利潤をかき集めているのです。

IMFと世界銀行はフィリピンに反人民的で経済発展に反する政策を押しつけてきた長い歴史があります。フィリピンは、第一に米国、さらには日本その他の帝国主義の支配のために破産と後進性を押しつけられ、直接的な債務に依存するだけでなく、ブレトンウッズ機構がさらなる債務を提供するためのいわゆる優良債務国の認定を受けてきました。それらを通して、自由化・規制緩和・民営化の計画と政策がフィリピンで実行されてきました。その結果、フィリピンの農業は大規模に破壊され、工業はその発展を妨げられてきました。核心的な産業基盤と基本サービスを含む重要産業部門で民間独占が作りだされ、その一方で生活費は慢性的に上昇しつづけ、失業および農民の土地なし状態が続いてきました。

帝国主義諸国とその市民社会の同盟者にはますます深まり拡大する新自由主義の危機を解決することはできません。これらの勢力は新自由主義化かれらに利益をもたらし、同時に世界の労働者や農民などその影響を受ける人々にいわゆる発展をもたらすという考えに固執しています。しかし現在までのところ、独占資本家だけがその競争を通して莫大な利益を得、同時に職がなく貧困にあえぐ人々はますます職と土地がない沼地のような状態へと引きずりこまれているのです。

しかし、私たちは今日、資本家の政策、そしてかれらが民衆に押しつけているシステムに対する労働者の反撃に関する3つの報道に接しています。私たちはヨーロッパでの労働者の大規模な立ち上がりに鼓舞されています。私たちはそこで、労働者が警察と衝突しつつも、しかし決して退かない姿を目撃しています。私たちはオバマ政権は独占資本である銀行ではなく民衆をこそ救済

せよと要求する米国の労働者およびその他の階層による占拠行動に鼓舞されています。私たちはさらに、独占資本が売り込む原子力発電所、福島でのメルトダウンによって民衆に死をもたらすことになるであろう原子力発電所の閉鎖を要求する日本の民衆に鼓舞されています。

今日、新自由主義政策と独占資本主義のシステムに影響を受けている労働者階級およびその他の階層にとっては、これらのたたかいこそ、自らの民主的権利と経済的権利のためのたたかい、自由、社会正義、平和、発展をもたらすシステムのためのたたかいにとって、真に頼ることができるものなのです

###